

2016年9月29日

株式会社インプレスR&D

<http://nextpublishing.jp/>

インプレス R&D の POD 流通サービス、 利用出版社 20 社突破！

復刊だけでなくオリジナルタイトルなど多数取り扱い

インプレスグループで電子出版事業を手がける株式会社インプレス R&D（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：井芹昌信）は、2015年よりサービス提供している POD 流通サービスの利用出版社が 20 社となりました。



POD 流通サービスを利用している、ごきげんビジネス出版、ビジネス・ブレイクスルー、響林社、出版研究センターの書籍

POD 出版の負担を軽減できる POD 流通サービス

POD 出版は、一冊単位で印刷・製造できる POD の特性を活用し、顧客の注文後に一冊ずつ印刷・製造・出荷する新しいタイプの出版方式です。アマゾンや三省堂書店、ウェブの書齋などがサービス提供しています。出版社が POD 出版するには、これらのストアと個別契約を結び、それぞれのストアが定めている仕様に沿った PDF や書誌を納品する必要があります。また、売上レポートなども各社から届くため、集計業務も煩雑になりがちです。

インプレス R&D の POD 流通サービスは、POD 設備を保有するアマゾンや三省堂書店、ウェブの書齋のほか、honto.jp や楽天ブックスといった複数のストアへの POD 出版の流通代行を行うサービスです。利用出版社は、1 種類の PDF と書誌を用意するだけで、POD 流通サービスがサポートするすべてのストアで販売できます。また、売上レポートもすべてのストアの実績をまとめて報告するため、集計業務の負担を大幅に軽減できるのが特長です。

POD ならではの書籍を多数取り扱い

POD の利用目的は出版社によりさまざまです。出版研究センターは、1970 年代発行の書籍「芝居小唄」を POD 出版で復刊しました。また、ビジネス・ブレイクスルーは、会員限定の月刊誌「大前研一通信」のバックナンバーを POD 化して販売しています。このほか、響林社は、大活字本の出版で POD を採用しています。

もっとも多いのは、電子書籍を元にした POD 出版です。ごきげんビジネス出版の場合、印刷書籍を求める著者が多いことから、POD を出版メニューのひとつにしています。また、ごきげんビジネス出版は、電子書籍絵本をカラーPOD 化するなど新しい出版にも積極的に取り組んでいます。

このように、さまざまな出版社がそれぞれの目的に応じた使い方ができるのが POD の魅力です。インプレス R&D では、今後もより多くの出版社に対し、POD 流通サービスを利用した出版を推進します。

POD 流通サービス

<http://nextpublishing.jp/podpub>

【株式会社インプレス R&D】 <http://nextpublishing.jp/>

インプレス R&D は、NextPublishing メソッドを活用した次世代型出版事業を推進する企業です。

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社: 東京都千代田区、代表取締役: 唐島夏生、証券コード: 東証 1 部 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。

【お問い合わせ先】

株式会社インプレス R&D NextPublishing センター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1 丁目 105 番地 神保町三井ビルディング

TEL 03-6837-4820

電子メール: pod@nextpublishing.jp